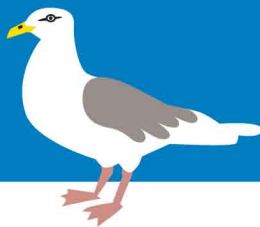


「みなと港のやくわり」 について

みなさんにとって、
「港」は、おとず訪れることの少ない、
“なじみがないもの” かもしれません。

しかし、ゆにゆう輸入にたよ頼る今のわたしたちにとって、
「港」は “なくてはならないもの” となっていることを
ご存じでしょうか…？

ここでは、このことについて、
少し考えてみたいと思います。



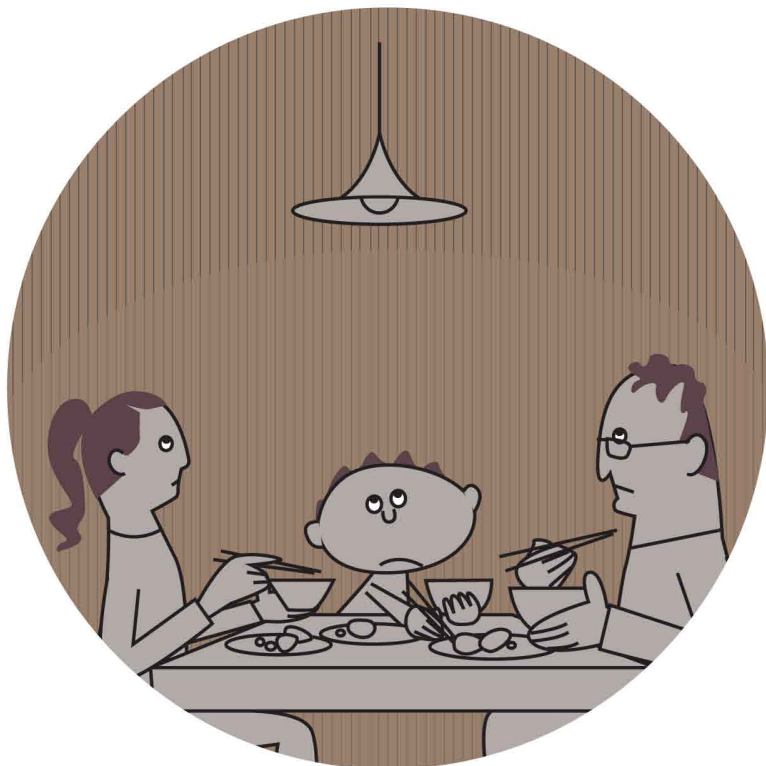
いまの日本の私たちは、
たくさんのものを外国から「輸入」しています。

そして
その輸入するモノの99パーセントが、
“港” を通じて、やってきます。
だから…



重量を基準にして考えると、
輸入品全体の99%が港からの輸入品です。
港に比べて飛行機での輸入品は圧倒的に少なく、
輸入品全体の1%程度となっています。

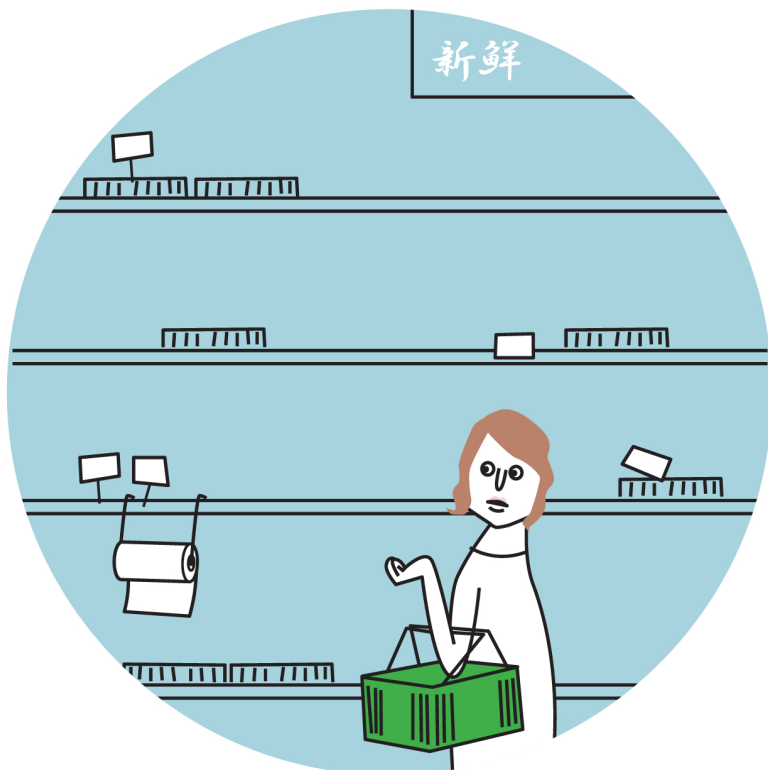
もしも「みなと」がなかったら…



家の明かりは消えてしまいます。

家で使う「電気」のほとんどは、
石油や石炭、ウランなどを使って作られています。
そして、石油や石炭等は全て、港を通じて、
外国から運ばれてきているのです。

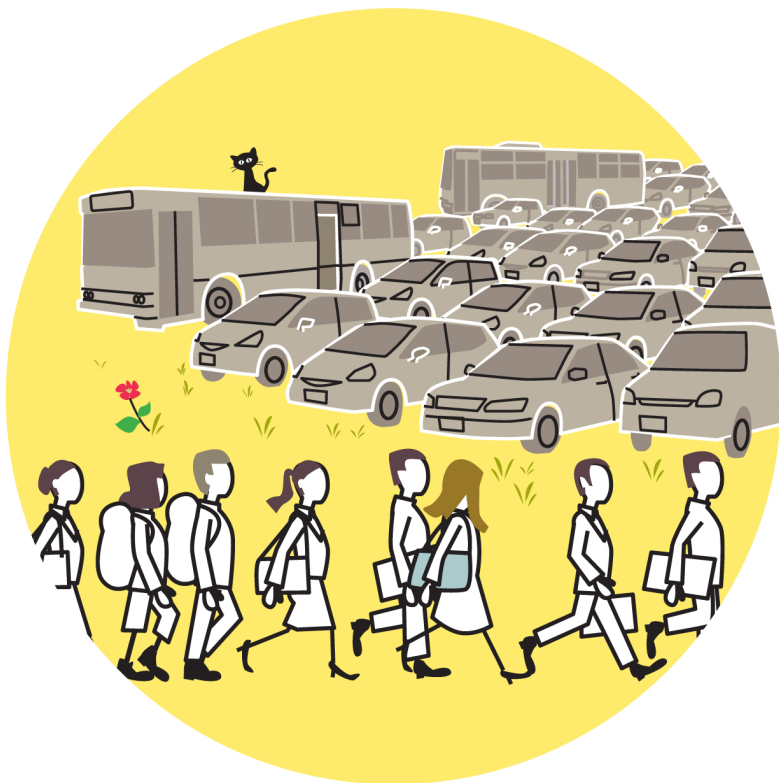
もしも「みなと」がなかったら…



スーパーから、ほとんどのものが、消えてしまいます。

スーパーマーケットに並んでいる食べ物や
雑貨品などの大半が、海外から輸入したもの、あるいは、
輸入したものを使って作られているものです。

もしも「みなと」がなかったら…



まちのクルマもバスも、全部とまってしまいます。

クルマのためのガソリンのほぼ100%が、
港を通して、外国から輸入されています。

… つまり …

もしも“港”が^な無くなってしまうと、
今の私たちは、
“^{ふつう}普通の^く暮らし”ができなくなってしまうのです。

だからこそ、
きちんとした“港”をつくり、まもっていくことは、
わたしたちの^く暮らしのために、
とても大切なしごとなのです。

もし、“港”について何か見聞きする^{きかい}機会があれば、
そんなことも少し、思い起こしてみてください。



港をつくり、まもる仕事はしばしば
“港湾行政”、“港湾土木” などと呼ばれています。

公益社団法人
JSCE 土木学会
JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS
〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目 外濠公園内
TEL:03-3355-3441 FAX:03-5379-0125
E-mail: info@jsce.or.jp

さし絵：新森紀子